

# 佐渡汽船(株)への支援金めぐる付帯決議、本会議でも可決 「誰もが納得できる説明が必要」と平良木議員が賛成討論

市議会文教経済常任委員会は9月10日、佐渡汽船(株)小木直江津航路支援問題で、「過去において支援を行ってきたにもかかわらず、今回、再びこのような事態を招いていることは、コロナ禍の影響を加味しても市民の理解を得ることは難しい。さらに、現在就航しているジェットfoilは旅客輸送のみであり、貨物輸送やマイカーを利用した観光に対応することが出来ず、利用状況は極めて厳しい状態にある。これらは過去の議会においても議論されており、今回、更なる支援に至ったことについてはその経過や将来の効果を含めて不透明な部分は否めない」などを内容とした決議を可決していました。

9月28日の本会議では、上野公悦文教経済常任委員長が決議案について説明し、平良木議員と安田議員が賛成討論を行いました。イラストはその時の様子です。

日本共産党議員団の平良木議員は討論の中で、「小木直江津港路維持確保支援金（予算案では約2億4千万円）は、厳しい経営状況にある佐渡汽船株式会社の経営安定が、小木直江津航路の利用促進に資する取組であることを鑑みて、基本的には必要である」としました。そのうえで、同議員は「支援先である佐渡汽船株式会社からは、いまだ中長期的な経営改善計画が示されず、支援による経営改善の見通しも明らかになっていない。そのことを市側に質問しても答弁は非常に抽象的なものだった」「重要なことは、佐渡汽船株式会社がどのような経営状況であり、今後どのような改善を行う計画であるのか、また、今回の支援によってどのような見通しが見いだせるのかなどのが、市民の目にしっかりとわかり、だれもが納得できるようにした上でなければ、貴重な税金を支出することはできないという原則だ。その意味で、予算執行は議会への説明の上で適切な時期に行うこと、執行後においても引き続き説明を行うことは、行政においても非常に重要なことだ。また、市民の願いは、この小木直江津航路が、貨物や車両の運送も行える航



路として一日も早く再出発することですので、その点を展望した条件遵守を求めることや、市としての航路維持や利用促進の取組も重要だ。こうしたことから、提案された付帯決議は、きわめて妥当かつ適切な内容であると判断し、積極的に賛成する」などとのべました。

採決の結果、賛成18、反対12で可決しました。私たち日本共産党議員団、市民クラブ、会派「創風」と会派「輝」の鈴木、橋本、滝澤議員が賛成しました。会派「みらい」、公明党、会派「輝」の栗田、小林議員が反対に回りました。



## コウノトリ、市内各地に

【タイリンヤマハッカ】  
（再掲）シソ科の多年草。漢字で「大輪山薄荷」と書きます。大きめの鋸歯があり、葉先が3つに割れています。葉の形は、亀の尾状になっていることが多いです。花期は8月～10月。大島区角間で青紫色の花を咲かせていました。花言葉は「秘めた思い」「思いやり」。写真は10月3日、撮影しました。



稲刈りが終わったら、「がんばったね」とねぎらうのこの当たり前の光景が早く、どこでも見られるようになるといいですね。



今年夏以降、市内各地にコウノトリが飛来してきています。6日には頸城区矢住地内の田んぼなどで数羽がエサを探していました。足環で確認したところ、兵庫県豊岡市、京都府京丹後市、福井県越前市などから来ていました。

## はしづめ法一の活動レポート

No.2031 2021.10.10

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず  
Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg\_0808@yahoo.co.jp

URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ  
「ホーセの見  
てある記」は  
← こちら

橋爪法一

検索

# 春よ来い 第六七八回 ピンクツリフネ

杉林の中の道を軽乗用車で走っていて一瞬、目を疑いました。まさか……。赤紫色のツリフネソウの群落の中にピンク色をした花が見えたような気がしたからです。

私は車を止め、バックしました。そして車から降り、改めてツリフネソウの群落を見ました。やっぱり、ピンクです。間違いありません。赤紫色の花にまじって、これまで見たことのないピンク色のツリフネソウの花が咲いていたのです。

もううれしいなんてもんじゃありません。興奮しました。花をゆっくり観察することもなく、私はスマートフォンのカメラを使って写真を撮りました。その数は五、六枚になりました。

写真を撮り終わってから、車を駐車できる場所に移動させ、フェイスブックで発信しました。いっときも早く、この発見を多くの人に伝えたいと思ったからです。

この発信では、「生まれて初めてピンク色のツリフネソウと出会いました。感動です。場所は秘密です」というコメントを書き、私の気持ちを伝えました。

コメントに合わせ、三枚の写真も一緒に発信しました。写真は、花の色、大きさなどを知らせてもらおうと、花びらが右を向いたもの、左を向いたものを選びました。そして、赤紫色の花も入れ、ピンクの花との違いがわかるようにしました。

私の発信を見て、多くの人がびっくりしたようです。赤紫色や黄色のツリフネは見ることがあっても、やはり、ピンク色は聞いたことも見たこともなかったものでしょう。「私のまわりには赤紫のしか見当たりません。(中略)見たい！」と書いてきた人もあれば、「新種、ハシツメノツリフネソウ」とまで持ち上げてくださった方もありました。

発信してからしばらく経って、撮った写真をもう一度ゆっくりに見ました。そして

思ったのです。どうしてピンク色のものが誕生したのだろう。同じ茎のなかでいくつかの花だけ、突然変異を起こし、ピンク色になったのだろうか。さらに、こうも思いました。赤紫色の花がいったんピンク色になって、さらに白い花へと変化を遂げていくのかも知れないと。

じつはピンク色のツリフネソウを見つけた日から十日ほど前に、私は白いツリフネソウと出合っていたのです。これは、大島区から吉川区川谷へ行く途中で見つけていました。ですから、赤紫色から白になる途中でピンク色のものができたとしても不思議ではないと思っただけです。

疑問をそのままにしておくとし落ち着きません。数日後、私はピンク色のツリフネソウを発見した場所をもう一度、訪れました。丁寧に見た結果、赤紫色の花が咲いている茎のなかのいくつかが花がピンク色になっているのではなく、ピンク色の花が咲いている茎はすべての花がピンク色になっていることがわかりました。そして驚いたことに、最初に発見した場所から五〇メートル離れたところにもピンク色のツリフネソウがあったのです。

現段階で私が到達した推論です。赤紫色の花を咲かせるツリフネソウと白い花を咲かせるツリフネソウが交配してピンク色の花のツリフネソウを誕生させたのではないかと。そうだとするならば、ピンク色の花を咲かせたツリフネソウの種を採取し、それを来春蒔(ま)けば、来季の秋にはピンク色の花を見せてくれるに違いありません。

数日前、私はピンク色のツリフネソウの花を咲かせた場所へまた行きました。これで三度目です。種が入った緑色の「ふくらみ」は触ると、ホウセンカと同じようにすくにはじけます。私はそっと採取し、郵便封筒に入れました。種は十個くらいはあるでしょう。あとは来年のお楽しみです。

## 大正7年に発生し広がったスペイン風邪の状況 大正7年から10年まで3波の流行。死者多数

9月に行われた総務常任委員会の決算審査で、私は公文書について発言し、「大正7年からのスペイン風邪がこの上越でどうなっていたか調べたいと思っている」とのべました。このほど、公文書センターより関連資料が送られてきました。

送られてきた資料を見ると、「大正7年10月に大流行が始まり、第1波が大正7年10月から大正8年3月、第2波が大正8年12月から大正9年3月、

第3波が大正9年12月から大正10年3月まで」とされています。

上越市では旧直江津町、旧高土村などの公文書、7つの市町村史などに記載があることがわかりました。全体像はまだまだわからない所がありますが、いまの上越市の市域のなかではたいへんな被害が出ています。これらは今後、短くまとめて整理したいと思っています。

下の資料は旧高田市資料です。



### 上越地域各消防署における 空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	9月29日(水)	10月6日(水)
上越南消防署	0.053	0.053
上越北消防署	0.040	0.040
新井消防署	0.053	0.057
頸北消防署	0.047	0.057
頸南消防署	0.060	0.053
東頸消防署	0.047	0.050
名立分遣所	0.067	0.057
高土分遣所	0.053	0.057

十二月に入ってからようやく減少の傾向が見られたが、管内の市および村落の累計と死亡数を示せば左記

市及村名	初発以来の累計	同上死亡
高田市	四二五三	三〇
金谷村	一五〇二	九
和田村	一九六四	二五
三郷村	一四九九	二
新道村	二五五	一
津有村	六二〇	一八
里五十公野村	二四八	一
上杉村	六〇五	七
高土村	一二八五	三
菅原村	六九五	四
板倉村	二一八五	四
妻太村	三〇七	〇
総計	一四四三八	一三二